

町内遺跡 XVI

— 平成27年度 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 —

二〇一七年

2017

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

町 内 遺 跡 XVI

—平成 27 年度 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—

2017

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

例 言

1. 本書は平成27年度に長野原町が各種開発事業に対応して実施した、町内遺跡緊急発掘調査の報告書である。
2. 本書は平成28年度国宝重要文化財整備事業補助金で作成した。
3. 本書に掲載した7地点は平成27年度国宝重要文化財整備事業補助金で実施した。
4. 調査は長野原町教育委員会直営で実施した。

調査主体 長野原町教育委員会

調査組織 教 育 長 市村隆宏

教 育 課 長 矢野今朝治

補 佐 兼 係 長 富田孝彦

文 化 財 係 市川勇氣（兼務）・白石光男（文化財指導員）

調 査 参 加 者 柿本六美・坂井春栄・向出治恵

5. 各遺跡の所在地は本文中に記した。
6. 本書中の遺跡名は調査が数次にわたっている場合はそれぞれを識別するために遺跡名の最後にローマ数字を表記してある。同一遺跡内の別地点と解釈していただきたい。

例) 長畝Ⅱ遺跡 Ⅲ

(遺跡名) (第3次)

7. 本書作成にあたっての作業分担は以下の通りである。

編集・執筆：富田 構・遺物写真撮影：富田 遺物実測・トレース：柿本

図版および写真図版作成：富田

8. 調査において以下の項目を委託した。

表土掘削・埋め戻し：東光建設株式会社

測 量：(株) 測 研

9. 本発掘調査における出土遺物ならびに図面・写真は長野原町教育委員会で保管している。

10. 発掘調査、整理調査及び報告書作成にあたり、次の方々・団体から御指導・御協力を賜った(五十音別敬称略)。

麻生敏隆・飯森康広・石田真・小川卓也・小野和之・川田強・黒澤照弘・齊藤利昭

桜岡正信・笹澤泰史・篠原正洋・鈴木徳雄・関俊明・高林真人・藤巻幸男・松田哲

向出博之・村上章義・山口逸弘・吉田智哉

群馬県教育委員会・株式会社立石木材・株式会社セーブオン・株式会社歴史の杜

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・ソフトバンクモバイル株式会社

東京電力株式会社群馬支店

凡 例

1. 本書で使用した地図は1:2,500「長野原町都市計画図」(長野原町1994)、1:25,000「長野原」・「大前」である。
2. 挿図の方位は磁北を示す。
3. 挿図中の土層図のレベルは各遺跡とも、現地表面レベルを基に任意で設定している。
4. 挿図中の縮尺については、各挿図中に示してある。
5. 挿図に図示した遺物は、観察表にその内容を記してある。観察表における復元土器の法量は左から器高、中央が口径、右側が底径を表し、計測数値は推定値を含む。() 内の数値は現存値、< > 内の数値は復元値を表す。
6. 土器の色調に関しては、「新版標準土色帖1995年後期版」(編・著小山正忠・竹原秀雄、監修農林水産省農林水産技術会議事務局、色票監修財団法人日本色彩研究所)の色名を参考にした。観察表には外面/内面の順で記した。
7. 挿図中のスクリントーン・記号は以下の通りである。

遺構・土層図



遺物



※土器における欠損部に関しては点描で表現している。

断面塗りつぶしは須恵器・陶磁器を示している。

目 次

例言

凡例

各遺跡の位置図 1

第1章 平成27年度長野原町内遺跡の概要 2

第2章 試掘および立会調査 3

A. 包蔵地内 3

1. 赤羽根遺跡 3

2. 西久保Ⅴ遺跡 7

3. 山根Ⅰ遺跡 8

4. 長畝Ⅱ遺跡Ⅲ 10

B. 包蔵地外 13

5. 応桑字唐堀 13

6. 応桑字新田 15

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図 各道跡の位置図 (1/100,000)	1	第 10 図 調査地点位置図 (1/5,000)	10
第 2 図 調査地点位置図 (1/10,000)	3	第 11 図 トレンチ配置図 (1/300)・土層図 (1/20)	11
第 3 図 トレンチ配置図 (1/1,500)	4	第 12 図 S101 検出状況図 (1/60)	12
第 4 図 土層図 (1/20)	5	第 13 図 長谷川道跡出土土遺物実測図 (1/4・1/3)	12
第 5 図 調査範囲エリア図 (1/3,000)	6	第 14 図 調査地点位置図 (1/5,000)	13
第 6 図 調査地点位置図 (1/5,000)	7	第 15 図 トレンチ配置図 (1/150)・土層図 (1/20)	14
第 7 図 トレンチ配置図 (1/300)・土層図 (1/20)	7	第 16 図 調査地点位置図 (1/5,000)	15
第 8 図 調査地点位置図 (1/5,000)	8	第 17 図 トレンチ配置図 (1/400)・土層図 (1/20)	16
第 9 図 トレンチ配置図 (1/700)・土層図 (1/40)	9		

表 目 次

第 1 表 平成 27 年度埋蔵文化財調査一覧	2	第 2 表 長谷川道跡出土土遺物観察表	13
-------------------------------	---	---------------------------	----

図 版 目 次

【赤羽根道跡】

図版 1	1. 調査区北側<1～4トレ> (東から)
	2. 調査区中央～西側<6・7トレ> (北東から)
図版 2	1. 1トレ (南東から)
	2. 1トレ土層 1 (南西から)
	3. 1トレ土層 2 (南西から)
	4. 2トレ (南東から)
	5. 2トレ土層 1・土坑 (南西から)
	6. 2トレ土層 2 (南西から)
	7. 3トレ (南東から)
	8. 3トレ土層 (南西から)
図版 3	1. 4トレ (南東から)
	2. 4トレ土層 1 (南西から)
	3. 4トレ土坑<風倒木痕?> (北東から)
	4. 5トレ (南東から)
	5. 5トレ土層 1・土坑<簡シ穴> (北東から)
	6. 5トレ土層 2 (南西から)
	7. 6トレ (南東から)
	8. 6トレ土層 1 (南西から)
図版 4	1. 6トレ土層 2 (南西から)
	2. 7トレ (南東から)
	3. 7トレ土層・土坑 (南西から)
	4. 7トレ土坑検出状況 (南西から)
	5. 8トレ (南東から)
	6. 8トレ土層 (南西から)
	7. 9トレ (南東から)
	8. 9トレ境上<縄文前期前半住居> (北東から)
図版 5	1. 9トレ境上土遺物出土状況 (北東から)
	2. 9トレ土坑平載状況 (南東から)
	3. 10トレ (北から)
	4. 10トレ土層 1 (北東から)
	5. 10トレ土層 2 (北東から)
	6. 11トレ (南東から)
	7. 11トレ土層 1 (北東から)
	8. 11トレ<平安住居> (南から)

【西久保V道跡】

図版 6	1. 調査区全景 (北から)
	2. 1トレ土層 (北西から)
	3. 1トレ畑跡 (北西から)

	4. 2トレ土層 (北西から)
	5. 2トレ畑跡 (北西から)

【山根I道跡】

図版 7	1. 調査地点全景 (南西から)
	2. 1トレ (南西から)
	3. 1トレ土層全体 (北東から)
	4. 1トレ土層下層 (北東から)

【山根I道跡/長谷川道跡II】

図版 8	1. 2トレ (南東から)
	2. 2トレ土層全体 (北東から)
	3. 2トレ土層下層 (北東から)
	4. 調査前風景 (東から)
	5. 1トレ全景 (南から)
図版 9	1. 1トレ土層 1 (東から)
	2. 1トレ土層 2 (東から)
	3. 1トレ土層 3 (東から)
	4. 2トレ<平安住居>完掘状況 (北から)
	5. 2トレ<平安住居>検出状況 (北から)
	6. 2トレ<平安住居>土層 (西から)
	7. カマド検出状況 (東から)
	8. 作業風景

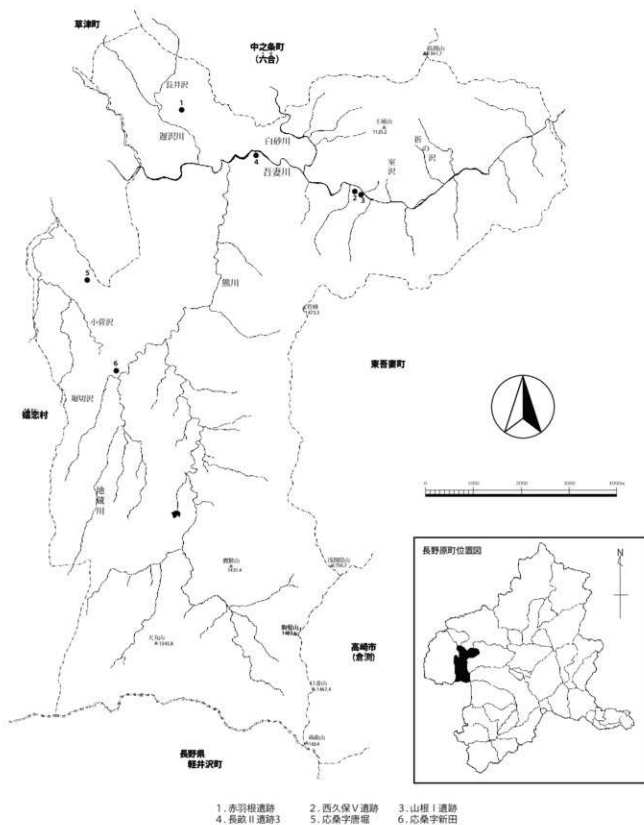
図版 10 長谷川道跡出土土遺物

【応桑寺遺跡】

図版 11	1. 調査地点全景 (北から)
	2. 1トレ (北から)
	3. 1トレ土層 (東から)
	4. 2トレ (北から)
	5. 2トレ土層 (東から)

【応桑寺新田】

図版 12	1. 調査地点全景 (東から)
	2. 1トレ (南から)
	3. 1トレ土層 (東から)



第1図 各遺跡の位置図 (1/100,000)

第1章 平成27年度長野原町内遺跡の概要

浅間山の北東麓に位置する長野原町では、平成28年6月現在で222の包蔵地（指定文化財を含む）が把握されている。この地域内において開発行為が計画された場合、事業主体者と町教育委員会文化財係との間で埋蔵文化財に関する取り扱いの協議を行い、試掘確認調査（包蔵地外は立会調査）を基本的に行っている。それによって明確な遺構・遺物が検出された場合、工事計画変更の協力をお願いをして現状で保存するか、やむを得ない場合は遺跡の破壊を前提とした記録保存（発掘調査）を行っている。

平成27年度の長野原町における埋蔵文化財調査は7件であった（第1表）。その内訳は本調査1遺跡、包蔵地内の試掘確認調査4遺跡、包蔵地外の試掘および立会調査2地点である。これらには國學院大学考古学研究室による学術調査（第1表2）が含まれている。本書では学術調査以外の6件の概要を報告する。

第1表 平成27年度埋蔵文化財調査一覧

No	本書 No	遺 跡 名	所 在 地	原 因 種 類	調査 面積	調 査 期 間	備 考
1	5	応桑字唐堀	応桑字唐堀 691-18、-129	個人専用住宅 試掘調査	17㎡	H27年6月23日	遺構・遺物なし
2	—	居家以岩陰群 1号岩陰	長野原字居 家以875、丙 877	学術調査	25㎡	H27年8月13日～ 8月24日	縄文土器・弥生土器・須恵 器・土師器・石器・陶磁 器・散件等出土 発掘届（92）
3	6	応桑字新田	応桑字新田 1,443-8	西中グラウンド 立会調査	98㎡	H27年11月17日	遺構・遺物なし
4	1	赤羽根遺跡	大津字赤羽根 1,388-41外 39筆	太陽光発電所 確認調査	405.8 ㎡	H27年12月10日～ 12月16日	縄文早期末～前期前葉住居 1・土坑2、平安住居1・ 陥し穴1 発掘届（93-1）
5	2	西久保V遺跡	横壁字西久保 96-1、96-4	送電線鉄塔 試掘調査	6.3㎡	H27年12月17日	近世天明畑1 発掘届（93-1）
6	3	山根I遺跡	横壁字山根 367-1外4筆	店舗 確認調査	31.8 ㎡	H28年3月8日	遺構・遺物なし 発掘届（93-1）
7	4	長畝II遺跡Ⅲ	与喜屋字長畝 173-1	進入路 確認調査	58.6 ㎡	H28年3月29日	平安住居1 発掘届（93-1） 保存協定

第2章 試掘および立会調査

A. 包蔵地内

1. 赤羽根遺跡



所在地	ながの ほらまちおおあづなわつ あびあか ね 長野原町大字大津字赤羽根 1,388
	番地 41 外 39 筆
開発事業名	太陽光発電所
調査期間	平成 27 年 12 月 10 日～16 日
開発総面積	42,628㎡
調査面積	405.8㎡

第2図 調査地点位置図 (1/10,000)

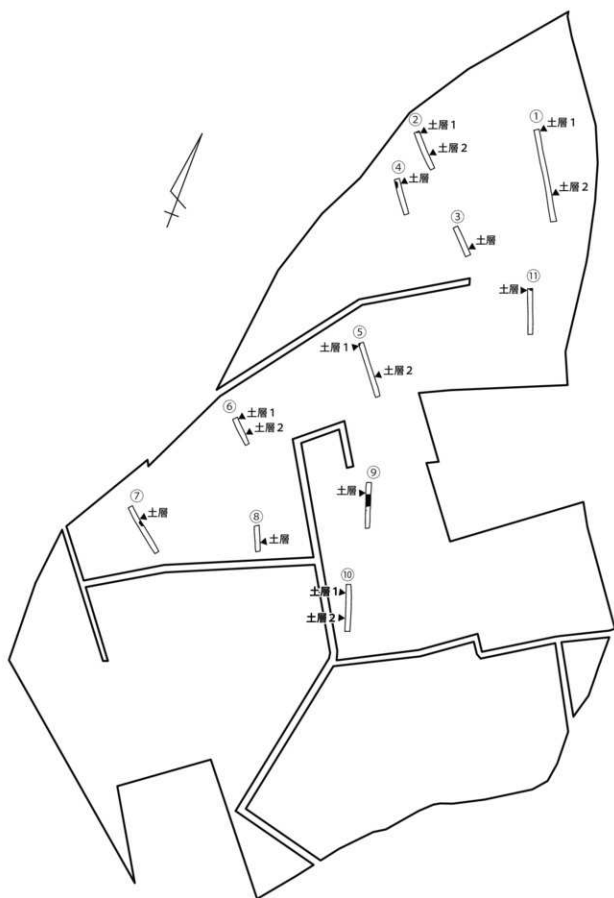
立地と経過

対象地は長野原町の北部、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の支流である遅沢川に注ぐ赤羽根沢の右岸に位置する。標高は 758 m～804 m 位である。周辺は旧草津街道が通っていたことが知られており、“赤羽根の一里松”や松の根元に「左草津へ 右入山へ」と刻まれた道しるべが往時を偲ばせる。対象地は周知の包蔵地「赤羽根遺跡 (No.98)」の範囲内であることから開発事業主と協議し、確認調査を行うことになった。

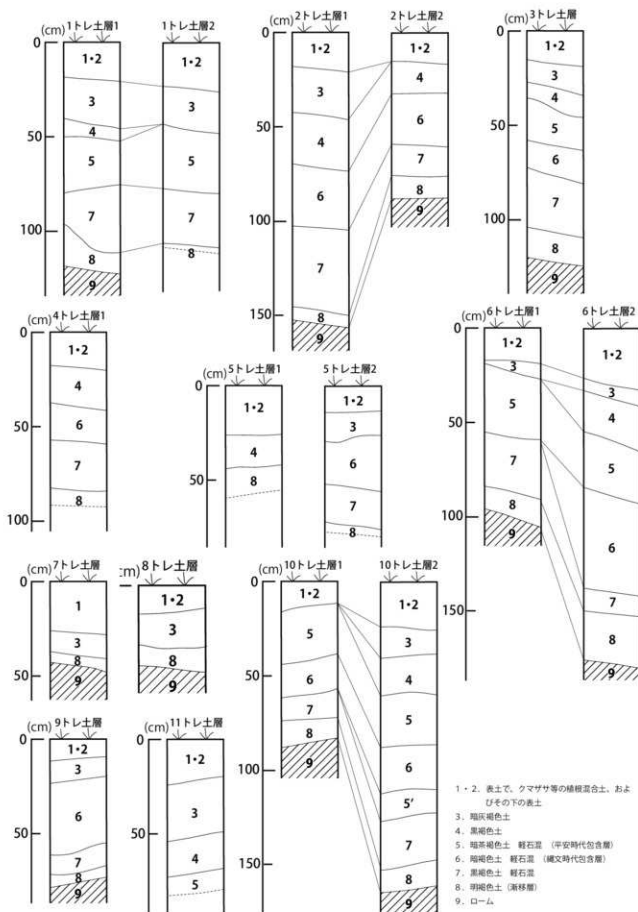
調査結果

太陽光発電所予定地内に 11 本のトレンチを設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、2・4・5・7・9・11 トレンチで住居跡や土坑などの遺構、あるいは遺構の可能性のある掘り込みが検出された。予定地全体を A～F の 6 つのエリアに分けた詳細は以下の通りである。

- A エリア：予定地北側の小高い山地形。立木も多い。2～4 トレを設定。2 トレで縄文時代の土坑、4 トレで風倒木痕と思われる掘り込みが確認される。3 トレは山の斜面地形。
- B エリア：谷地形である D エリアの東側に位置し、比較的平坦な地形。1・5・9・11 トレを設定。5 トレで北端に平安時代と考えられる陥し穴 1 基検出。9 トレで縄文時代前期前半の焼失住居と思われる遺構を断面で検出。その下に中期前葉包含層が検出されていることから遺構の重複関係があるものと予想される。さらに時期不明土坑



第3図 トレンチ配置図 (1/1,500)



第4図 土層図 (1/20)

1 基を検出。11 トレでは北端に平安時代住居跡の一部検出。

Cエリア：今回、畑を片付けていなかったため調査に入れなかったエリア。谷地形から離れた東側では、Bエリアの続きで遺構の検出される可能性は高いと考えられる。

Dエリア：谷地形。6・8・10トレを設定。6トレで谷頭に近い地形、10トレは谷の流心で湧水が確認された。8トレは平坦に削削されており、畑をしていた畝サク痕が確認されている。

Eエリア：谷地形Dエリアの西側の比較的平坦な地形。7トレのみの設置。トレンチ中央で縄文時代早期末～前期前半の土坑2基を検出。また畑をしていた畝サク痕が確認されている。エリア南側。立木が広がり、今回は調査に入ることができなかった。

Fエリア：谷地形Dエリアの西側、Eエリアの南側に位置し、立木で今回調査に入れなかったエリア。北側はEエリアとのつながりで遺構が存在する可能性は残されているが、南側は急峻な斜面地で形成されており、遺構が存在する可能性は低い。

基本堆積土層は大きく9層に分別することができた。

1・2層：表土で、クマザサ等の植根混合土、およびその下の表土。

3層：暗灰褐色土

4層：黒褐色土

5層：暗茶褐色土 軽石混（平安時代包含層）

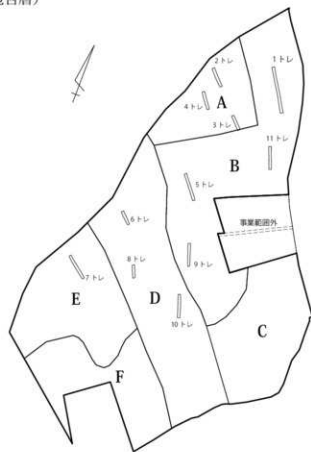
6層：暗褐色土 軽石混（縄文時代包含層）

7層：黒褐色土 軽石混

8層：明褐色土（漸移層）

9層：ローム

この所見をもとに、遺物包含層と考えられる5・6層及び遺構覆土についてはこれらの層と掘削面に30cm程度の保護層が設けられるが否かを開発事業主と協議した結果、各々のトレンチでは現表土から遺構確認面まで比較的浅いため、保護層を保持することが困難であることが判明し、エリア内の記録保存を実施する方向性で合意した。ただし今回の確認調査範囲では本調査で見込まれる遺構数や本調査実施エリアを明確にすることができなかったため、次年度に再度確認調査を実施する運びとなった。



第5図 調査範囲エリア図 (1/3,000)

2. 西久保V遺跡



所在地	長野県 長野市大字横壁字西久保 96-1、-4
開発事業名	送電線鉄塔基礎撤去
調査期間	平成 27 年 12 月 17 日
開発総面積	85.56㎡
調査面積	6.3㎡

第 6 図 調査地点位置図 (1/5,000)

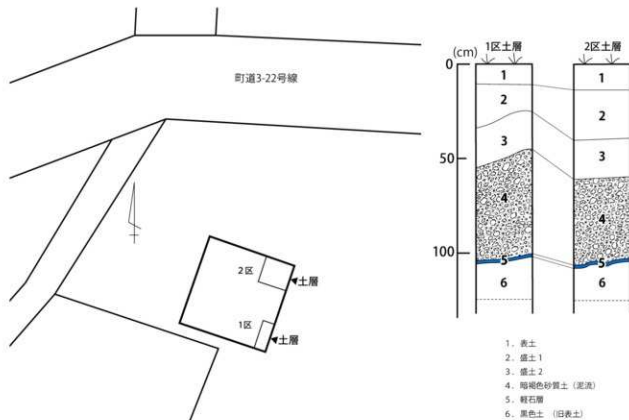
立地と経過

対象地は長野原町の北部、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川右岸の河岸段丘上に位置する。標高は 595.5 m 位である。対象地は周知の包蔵地「西久保V遺跡 (No. 222)」の隣接地であることから開発事業主と協議し、立会調査を行うことになった。

調査結果

送電線鉄塔 (No. 32) 基礎撤去地内に立会い、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。

その結果、4つの独立基礎のうち、東側の山側 (1区)、谷側 (2区) に立会い、両区の断面で



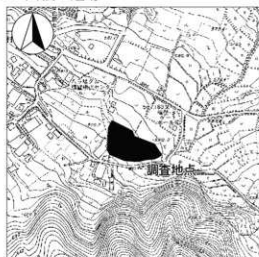
第 7 図 トレンチ配置図 (1/300)・土層図 (1/20)

江戸時代の畑跡が検出された。この畑跡は天明3（1783）年に浅間山大爆発に伴い発生した泥流に埋没したものである。

1・2区ともに基礎掘削時の掘り方面を検出すると、1区で現表土下約90cm、2区で約80cmで軽石層及び畑面が確認された。

なお対象地は周知の包蔵地外であったが、この調査結果により「西久保V遺跡（№222）」として範囲拡張変更の措置をとった。

3. 山根I遺跡



所在地	ながの ほんまちおおあざとこがねざやま 町 長野原町大字横壁字山根 367-1 外 4 筆
開発事業名	店舗
調査期間	平成 28 年 3 月 8 日
開発総面積	2,472.86㎡
調査面積	31.75㎡

第8図 調査地点位置図（1/5,000）

立地と経過

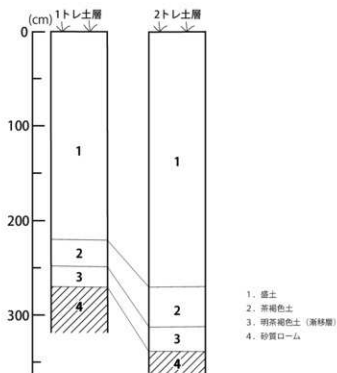
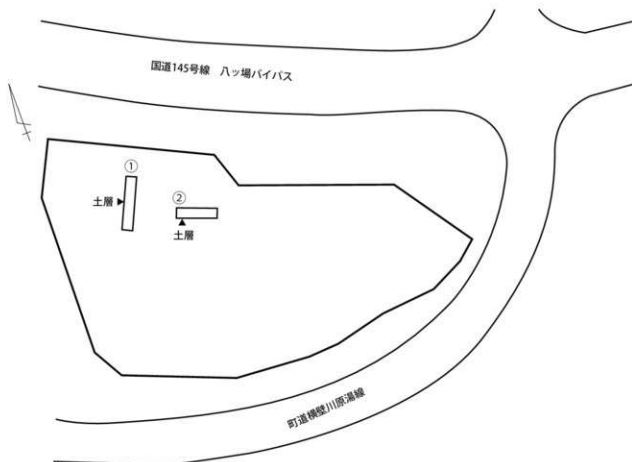
対象地は長野原町の北部、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川右岸の河岸段丘上に位置する。標高は600 m位である。対象地は周知の包蔵地「山根I遺跡（№26）」の範囲内であることから開発事業主と協議し、確認調査を行うことになった。

調査結果

コンビニエンスストア建設予定地内に2本のトレンチを設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、対象地全体が盛土造成されており、両トレンチで遺構となる掘り込みは確認されなかったため、建設工事に際して文化財保護的に支障はないと判断した。

堆積土層は1トレンチで西壁中央、2トレンチで南壁西端で確認した。1. 盛土：（現地表から210～270cm厚）、2. 茶褐色土：（30～40cm厚）、3. 明茶褐色土：漸移層（20～25cm厚）、4. 砂質ローム層：地山であった。地山の関東ローム層は両トレンチで確認された。

また両トレンチとも数度にわたり盛土造成が施されており、その厚さは1トレンチで210cm、2トレンチで270cmであった。もともとは南西から北東に向かう傾斜地で畑があったが、その後仮設のゲートボール場・温泉施設などに転用された箇所であった。



第9図 トレンチ配置図 (1/700)・土層図 (1/40)

ながわに いせき 4. 長畝Ⅱ遺跡Ⅲ



所在地	ながの ほらまちおおど よ き や あざながわ 長野原町大字与喜屋字長畝 173-1
開発事業名	進入路
調査期間	平成 28 年 3 月 29 日
開発総面積	228㎡
調査面積	58.6㎡

第10図 調査地点位置図 (1/5,000)

立地と経過

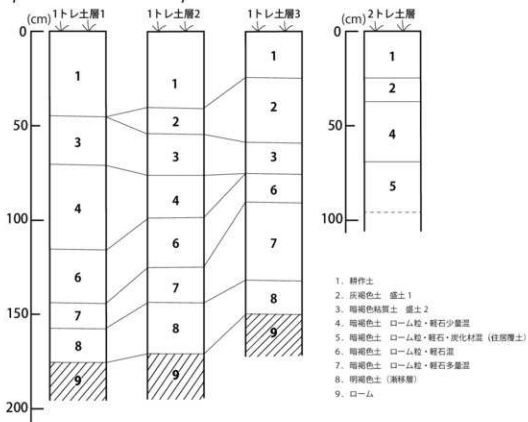
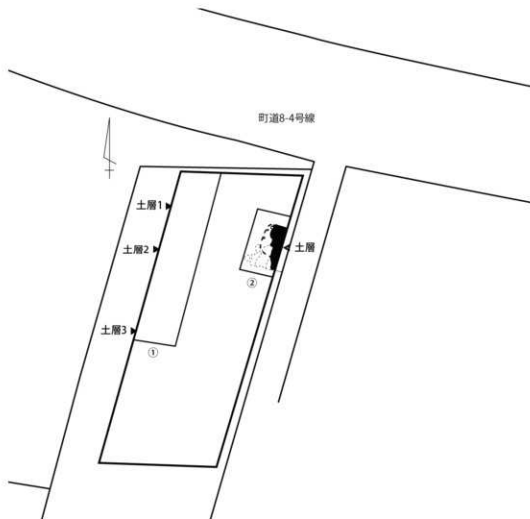
対象地は長野原町の北部、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川右岸の河岸段丘上に位置する。標高は663 m位である。対象地は周知の包蔵地「長畝Ⅱ遺跡 (No. 127)」の範囲内であることから開発事業主と協議し、確認調査を行うことになった。

調査結果

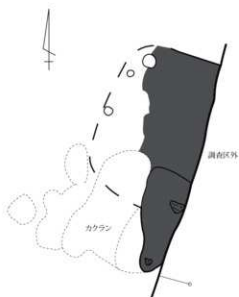
進入路新設予定地内に2本のトレンチを設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、2トレで平安時代の住居跡が約1/2検出された。カマド跡からは多量の須恵器・土師器片および炭化物が出土した。住居跡の掘り込み等は北壁部分を把握できたが、カマド付近および西壁は後世の攪乱のため予測ラインに留まった。検出当初は2軒の重複とも考えられたが、南カマドをもつ長軸3.4 m、短軸3 m程の隅丸方形の住居跡と判明し、出土遺物から9世紀後半の所産と判断された。

堆積土層は1トレで3箇所、2トレで1箇所の合計4箇所を確認し、全部で9層に分別できた。

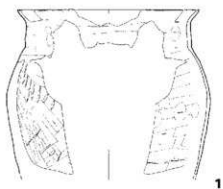
以上のように対象地内では平安時代の住居跡1軒が検出されたが、現表土下90 cmでの検出だったので、幅杭から1 m程を法尻にすれば、住居跡検出範囲をカバーすることができ、文化財保護的には支障ないと判断された。事業開発主とは住居面を現状保存する上での「保存協定」を取り交わした。



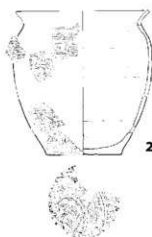
第11図 トレンチ配置図 (1/300)・土層図 (1/20)



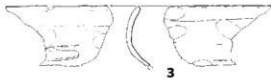
第12図 SI01検出状況図 (1/60)



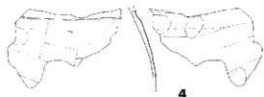
1



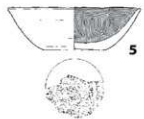
2



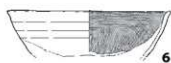
3



4



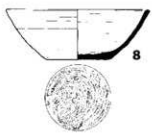
5



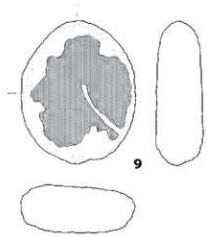
6



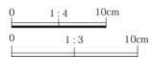
7



8



9



第13図 長畝Ⅱ遺跡Ⅲ出土遺物実測図 (1/4・1/3)

第2表 長畝Ⅱ遺跡Ⅲ出土遺物観察表

検出 NO.	図面 NO.	図種	法量 (縦長・口徑・直径) (cm)	特 徴 (形態・手法等)	構成	粘土・材質等	色面 (外面・内面)	備考
13-1	10	土師器 甕	<19.2> / <17.4> / —	コ字口縁脱。口縁部上位は外反し、下位は内凹 突縁に直立する。胴部の張り強く大きく膨ら む。口縁部外面は横位ヘラナデ調整で微細な 溝を残す。体部外面は横位ヘラナデ調整で微 細な溝を残す。体部外面は横位ヘラナデ調整 で微細な溝を残す。内面は横位ヘラナデ調整 で微細な溝を残す。	陶化地・良好	角閃石・小石	にぶい・地／にぶい・地	口縁部～体部 20% 残存。 SR01 カマド
13-2	10	土師器 甕	<15.2> / <14.2> / 8.0	小形甕。外面は6本一単位の横位ハケメ。内面 は横位ロクロナデ調整。底部は回転率切り。	陶化地・良好	角閃石・長石・ 小石	灰黄／灰白	口縁部～体部 20% 残存。 SR01 床直・カマド
13-3	10	土師器 甕	(4.8) / — / —	コ字口縁脱。口縁部上位は外反し、下位は内凹 突縁に直立する。口縁部内外面とも横位ヘラ ナデ調整で微細な溝が見られる。体部外面は横 位ヘラナデ調整。	陶化地・良好	角閃石・小石	にぶい・黄地／にぶい・ 黄	破片資料 (口縁部～胴部) SR01 床直・カマド
13-4	10	土師器 甕	(6.2) / — / —	コ字口縁脱。口縁部と体部の間に段を有する。 体部外面は横位・斜位ヘラナデ調整。内面は横 位ヘラナデ調整で、内外面に微細な溝が見られ る。	陶化地・良好	角閃石・長石	—	破片資料 (体部)・SR01 カマド
13-5	10	土師器 杯	4.4 / <14.0> / 6.3	ロクロ整形。外面はロクロナデ。内面は口縁部 に横位。体部に縦位 (放射状) ヘラミガキ調整 後に黒色処理を施している。底部は回転率切り。	陶化地・良好	白色粘	にぶい・地／黄地	45% 残存。 SR01 カマド
13-6	10	土師器 杯	(4.8) / <17.1> / —	ロクロ整形。外面はロクロナデ。内面は口縁部 に横位。体部に縦位 (放射状) ヘラミガキ調整 後に黒色処理を施している。	陶化地・良好	白色粘	にぶい・地／黄地	口縁部～体部 15% 残存。 SR01 カマド
13-7	10	土師器 杯	(4.2) / — / —	ロクロ整形。外面はロクロナデ。内面は口縁部 に横位。体部に縦位 (放射状) ヘラミガキ調整 後に黒色処理を施している。	陶化地・良好	白色粘・黒色粘	地／にぶい・黄地	破片資料 (口縁部～体部) SR01 カマド
13-8	10	須恵器 杯	5.3 / <15.2> / 6.8	ロクロ整形。内外面ともロクロナデ調整。底部 は回転率切り。	還元地・堅固	長石・小石	灰白	50% 残存。 SR01 床直・カマド
13-9	10	滑石器 滑石	長 11.3 / 幅 9.1 / 厚 3.8	重量 562g。	—	粗粒輝石・安山岩	—	表土

B. 包蔵地外

5. 応桑字唐堀



所在地 長野県 長野市 長野原町大字 応桑字 唐堀 696-18、-129
 開発事業名 個人専用住宅
 調査期間 平成 27 年 6 月 23 日
 開発総面積 273m²
 調査面積 17m²

第14図 調査地点位置図 (1/5,000)

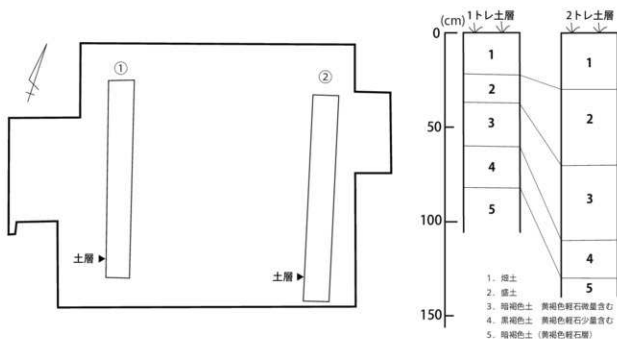
立地と経過

対象地は長野原町の中央部、浅間高原地帯に属し、浅間火山火砕流堆積物により形成された台地上に位置する。標高は933 m位である。対象地は周知の包蔵地「唐堀1遺跡 (No. 161)」の隣接地であることから開発事業主と協議し、試掘調査を行うことになった。

調査結果

個人住宅建設予定地内に2本の本のトレンチを設定し、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、1トレンチでいくつかの掘り込みを確認したがいずれも植栽痕と判断され、遺構となる掘り込みは確認されなかった。住宅建設工事に際して文化財保護的に支障はないと判断した。

堆積土層は1・2トレンチとも西壁の南端で確認した。1. 耕作土：(現地表から22～30cm厚)、2. 盛土：(20～40cm厚)、3. 暗褐色土：黄褐色軽石粒微量含む(23～40cm厚)、4. 黒褐色土：黄褐色軽石粒少量含む(20cm厚)、5. 明褐色土：黄褐色軽石を30～40%程含む(～30cm厚)であった。地山の関東ローム層は確認されず、5層が遺構確認面であった。おそらく5層から50～100cmで関東ローム層に達すると予想された。



第15図 トレンチ配置図 (1/150)・土層図 (1/20)

6. 応桑字新田



所在地	長野原町大字応桑字新田 1,443-8
開発事業名	浸透管理設
調査期間	平成 27 年 11 月 17 日
開発総面積	1,956㎡
調査面積	98㎡

第16図 調査地点位置図 (1/5,000)

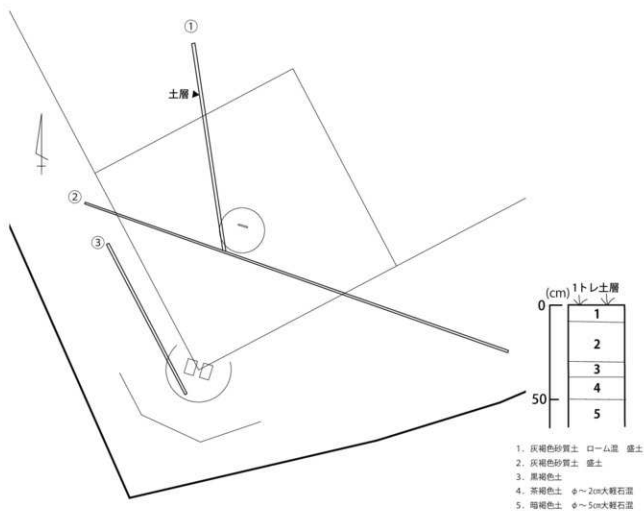
立地と経過

対象地は長野原町の中央部、浅間高原地帯に属し、浅間火山火砕流堆積物により形成された台地上に位置する。標高は 972 m 位である。対象地は町立長野原西中学校校庭で、周辺には周知の包蔵地が点在していることから開発事業主と協議し、立会調査を行うことになった。

調査結果

浸透管理設工事に立会い、土層の堆積状況と遺構の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかったので浸透管理設工事に際して文化財保護的に支障はないと判断した。

堆積土層は 1. 灰褐色砂質土：ローム粒含む（現地表から 10cm 厚）、2. 灰褐色砂質土：（20cm 厚）、3. 黒褐色土：φ 1 cm 大のロームブロックを含む（約 8 cm 厚）、4. 茶褐色土：φ ～ 5 cm 大の軽石・砂礫を含む（20cm 厚）、5. 暗褐色土：φ ～ 2 cm 大の軽石・人頭大角礫を含む（約 15 cm 厚）であった。地山の関東ローム層は確認されず、5 層が地山と思われる堅い層であった。また 2 壘からホームベース方向へ地層が緩傾斜しており、以前の谷地形を示していると考えられた。



第17図 トレンチ配置図 (1/400)・土層図 (1/20)

写 真 图 版



1. 調査区北側<1～4トレ>（東から）



2. 調査区中央～西側<6・7トレ>（北東から）



1. 1トレ (南東から)



2. 1トレ土層1 (南西から)



3. 1トレ土層2 (南西から)



4. 2トレ (南東から)



5. 2トレ土層1・土坑 (南西から)



6. 2トレ土層2 (南西から)



7. 3トレ (南東から)



8. 3トレ土層 (南西から)



1. 4トレ（南東から）



2. 4トレ土層1（南西から）



3. 4トレ土層1・土坑<風倒木痕?>（北東から）



4. 5トレ（南東から）



5. 5トレ土層1・土坑<陥し穴>（北東から）



6. 5トレ土層2（南西から）



7. 6トレ（南東から）



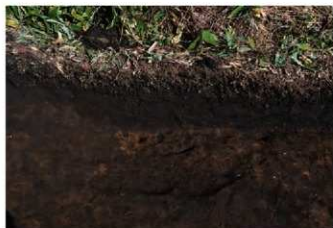
8. 6トレ土層1（南西から）



1. 6トレ土層2 (南西から)



2. 7トレ (南東から)



3. 7トレ土層・土坑 (南西から)



4. 7トレ土坑検出状況 (南西から)



5. 8トレ (南東から)



6. 8トレ土層 (南西から)



7. 9トレ (南東から)



8. 9トレ焼土<縄文前期前半住居か> (北東から)



1. 9トレ焼土遺物出土状況（北東から）



2. 9トレ土坑半截状況（南東から）



3. 10トレ（北から）



4. 10トレ土層1（北東から）



5. 10トレ土層2（北東から）



6. 11トレ（南東から）



7. 11トレ土層1（北東から）



8. 11トレ＜平安住居＞（南から）



1. 調査区全景（北から）



2. 1トレ土層（北西から）



3. 1トレ畑跡（北西から）



4. 2トレ土層（北西から）



5. 2トレ畑跡（北西から）



1. 調査地点全景（南西から）



2. 1トレ（南西から）



3. 1トレ土層全体（北東から）



4. 1トレ土層下層（北東から）



1. 2トレ（南東から）



2. 2トレ土層全体（北東から）



3. 2トレ土層下層（北東から）



4. 調査前風景（東から）



5. 1トレ全景（南から）



1. 1トレ土層1（東から）



2. 1トレ土層2（東から）



3. 1トレ土層3（東から）



4. 2トレ<平安住居>完掘状況（北から）



5. 2トレ<平安住居>検出状況（北から）



6. 2トレ<平安住居>土層（西から）



7. カマド検出状況（東から）



8. 作業風景



長畝Ⅱ遺跡Ⅲ出土遺物



1. 調査地点全景（北から）



2. 1トレ（北から）



3. 1トレ土層（東から）



4. 2トレ（北から）



5. 2トレ土層（東から）



1. 調査地点全景（東から）



2. 1トレ（南から）



3. 1トレ土層（東から）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ちょうないいせき じゅうろく						
書 名	町内遺跡Ⅲ						
副 書 名	平成 27 年度 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書						
巻 次							
シ リ ーズ 名	長野原町埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第 32 集						
編 著 者 名	富田孝彦						
編 集 機 関	長野原町教育委員会						
所 在 地	〒 377-1305 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋 174 TEL0279-82-4517/FAX0279-82-4519						
発 行 年 月 日	西暦 2017 年 2 月 28 日						
ふ り が な 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	市町村コード	北 緯 (世界測地系)	調査期間	調査面積	調査原因	発見遺構
		遺跡番号	東 経 (世界測地系)		開発面積		保護措置
あかばねいせき 赤 羽 根 遺 跡	長野原町大字大津字赤羽 根 1,388-41 外 39 筆	10424	365644	151210 ~ 151216	405.8㎡	太陽光発電 所	縄文住居?土坑 平安住居・亀し穴 記録保存 (継続協議)
		98	1386095		42,628㎡		
にしくぼごいせき 西 久 保 V 遺 跡	" 大字横壁字西久 保 96-1、-4	10424	365436	151217	6.3㎡	送電線鉄塔 基礎撤去	天明畑
		222	1386592		85.56㎡		—
やまねいちいせき 山 根 I 遺 跡	" 大字横壁字山根 367-1 外 4 筆	10424	365386	160308	31.75㎡	店舗	遺構なし
		26	1386687		2,472.86 ㎡		—
ながうねいせき 長 畝 II 遺 跡 Ⅲ	" 大字与喜屋字長 畝 173-1	10424	365497	160329	58.6㎡	進入路	平安住居
		127	1386283		228㎡		現状保存
おうくわあざからほり 応 桑 字 唐 堀	" 大字応桑字唐堀 696-18、-129	10424	365193	150623	17㎡	個人専用住 宅	遺構なし
		—	1385832		273㎡		—
おうくわあざしんでん 応 桑 字 新 田	" 大字応桑字新田 1443-8	10424	365014	151117	98㎡	浸透管理設	遺構なし
		—	1385887		1,956㎡		—

町内遺跡 XVI

— 平成27年度 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 —

平成29年2月23日 印刷

平成29年2月28日 発行

発行 群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

〒377-1305 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋174

TEL 0279 (82) 4517 FAX 0279 (82) 4519

印刷 朝日印刷工業株式会社